

◆八木健選 ～田中恵山句集『笹ヶ瀬川』を読む～

句集を拝読して、句のそれぞれに感想を書かせていただくつもりでしたが、秀句に触発されました。様々なイメージが広がり、浮かんだ五七五で感想とさせていただくことにしました。

◆天網の疎にして疎なる鰯雲

天網の投げ網鰯雲に打つ
非力にて雲の鰯を獲りにがす
鰯雲見上げ首筋違へけり

◆捕虫網鉄砲担ぐ如かつぐ

少年の意気込み捕虫網の句に
殺さずに捕虜とするのが捕虫網
戦闘機捕る捕虫網欲し

◆吾亦紅こちんこちんの此が花

吾も亦紅いと言へど硬すぎる
地味に見せるは如何なる事情吾亦紅
活けられて急には枯れず吾亦紅

◆蝶縫れみしが物別れに終わる

縫れるは諍ひらしき恋の蝶
ドキドキのあとははらはら恋の蝶
蝶の恋詮索をして滑稽句

◆遠足のがやがやがきて通り過ぐ

がやがやにあり遠足の楽しさは
遠足の子等わがままの寄せ集め
遠足児タイムトンネル潜り去る

◆日向ぼこ変人横に来て座る

親友を変人と呼び日向ぼこ
退屈に辛さと自由日向ぼこ
本日は聞き手にまはる日向ぼこ

◆奴風回る魂胆見え隠れ

この風は出来が悪くてすぐすねる
竹と紙なれど魂胆潜む風
風糸を持つ手の技の見せどころ

◆花吹雪千両役者ほど浴びる

思ひ込むことでだれでも幸せに
花吹雪浴びてなれたは大スター
思ひ込むだけで簡単俳句術

◆襦袢市へぼろを承知の人の波

襦袢市へ集まる人も襦袢を着て
襦袢市へダメージジーンズ着用し
襦袢市へ襦袢を愉しむ詩の心

◆少年をいびくりに来る鬼やんま

昆虫の中の番長鬼やんま
少年の目ん玉睨む鬼やんま
少年に睨まれ退散鬼やんま

◆百姓のをっさんとして案山子立つ

つぎはぎの衣裳が似合ふ案山子爺
擬人化が自然にできるのが案山子
案山子には案山子の務め立つことの

◆貸方のありて蛙の目借時

証文のなくて蛙の目借時
蛙の字省いて目借だけで季語

妻狩とも書くこの季語の意味深し

◆蟻の列加賀の行列ほどつづく

蟻の列参勤交代めいてをり

蟻にある列を乱さぬてふ誇り

列に居ることで安心するか蟻

◆見せるものなく兜虫出して見す

色艶と角こそ自慢兜虫

芸などは持たず逃げたい兜虫

少年が胸に這はせて兜虫

◆水被り海女塩鹹(から)き身を洗ふ

シャワー浴び鹹き海の字捨つる海女

シャワー浴びたとて潮の香残る海女

◆奴風浄土まで糸伸ばす気か

浄土までの糸が足りない奴風

和風みな浄土めざすが洋風は

地に落ちて不貞腐れたる奴風

◆蛍こい蛍こい来る筈がない

恋蛍なれば来るやも蛍来い

その尻に照明装置恋蛍

逢引の蛍に闇の深きこと

◆田中恵山（たなかけいざん）

本名、田中恵（たなかめぐむ）。昭和五年、広島県生まれ。明治二十八年、明治大学商業学部卒業。昭和五十三年、津田清子主宰の沙羅俳句会の鳥取支部が発足し、津田清子の指導を受ける。「沙羅」同人、「夕風」同人、「俳句広島」同人。現在、広島県に在住。

かつて、岡山市で勤務していた頃、桃太郎伝説のある笹ヶ瀬川の橋の上で「桃

流れし川に西瓜の川流る」と詠んだ。この句を朝日俳壇に投句したところ加藤楸邨選になった。この思い出から、句集のタイトルを「笹ヶ瀬川」とした。